

英雄美学

彼らはなぜヒーローを選んだのか？

「みんなが力を合わせれば何だってできる」
 ゲイビマンが伝えたいメッセージである。
 地域を愛し、情熱を注ぎ、夢をかなえていく。
 ヒーローにまちづくりの原点を見た。

「アイデアを出し合い手作りのショーを」が、ゲイビマンプロジェクトのこだわり。衣装はもちろんショーで使う武器や大道具まで全てが手作りだ。音声収録に5時間、編集に3日間など、準備も膨大だ。公演は100回を超えた。「ビジネスにしたら？」と誘われたこともある。だが断った。「ボランティアだからこそ良いものができる」と菊地さん。無償のヒーローの美学は、利益ではなく愛。子供たちを心

から楽しませ、夢を与えること。だから、いつだって真剣だ。ヒーローは知っている。「本気じゃなければ子供を喜ばせることはできない」ことを。完全無欠ではない人間らしいさもゲイビマンの魅力。6戦士は視覚や聴覚など、一人が一つずつ優れた能力を持っている。6人がそろえばこそ強力なパワーを発揮できる。「みんなが力を合わせれば、何でもできる。一人はみんなのために、みんなは一人のため

に」。ゲイビマンが子供たちに一番伝えたいメッセージだ。互いを認め合うことで、それぞれの個性を発揮できる。互いに協力し、融合することで大きな力を生み出すことができる。それは、藤沢町を加えた8つの地域が一つになって、大きな価値や魅力を生み出している一関市の今と重ね合わせることができる。ゲイビマンは今日も行く。多くの人に愛と夢を与えるた

吉田知宏さん

37 会社員 東山町長坂

プロジェクトでは、特に決まった役割はないけど、みんなと全てのこと全力で取り組んでいます。周囲で話題になるのがうれしいですね。ゲイビマンは地域を本気で愛する、血は繋がってないけど「家族」だと思います。

円谷伸之さん

41 小売業 東山町長坂

裏方で小道具係をやっています。スタッフみんなで助け合いながら寸劇を作り上げています。周り的人から「ゲイビマンを見て子供が素直になったよ。言うことを聞くようになったよ」と聞かされ、とても嬉しいです。

小野寺碧さん

24 会社員 東山町松川

アシスタントです。小さなことでも役立てるようにサポートを頑張っています。活動の中で新しい人たちとの繋がりがもってきて、地域で生活する大切さを実感しました。私にとってのゲイビマンは「みんなの夢、地域の輪」。

鈴木 智さん

47 地方公務員 東山町長坂

一番の役割は移動時のバスの運転。後は裏方に徹しています。地域の人たちからショーの予定を聞かれたり「面白かったよ」と声をかけられるようになりました。みんなとショーを作り上げる時間は疲れるけど楽しいですね。

鈴木 隆さん

28 自営業 東山町長坂

主にアシスタント、物資運搬や出演者たちの演技の補助を担当してます。他には声の収録の手伝いも。ゲイビマンの活動を通じて、自身の地元への愛着が強くなったと実感。これからも楽しく、笑顔でがんばっていきます。

菅原晃弘さん

38 作業療法士 東山町長坂

音響全般を担当しています。自前の放送設備をショーがあるたびに出勤させています。地域や家庭で日常でゲイビマンを話題にすることが増えましたね。このプロジェクトを通じて、ちょっとだけポジティブになれました。

鈴木星子さん

24 会社員 東山町長坂

アテレコを担当しています。入って間もないですが、町内の知り合いがたくさん増えました。友達と一つのを創っていることが本当に楽しく、充実しています。地元のために活動するゲイビマンは本物のヒーローです。

鈴木幸志さん

31 介護士 東山町長坂

資材運びと打ち上げの担当です。10月8日の藤沢町でのショーは行けなかったのが残念。見に来てくれた子供たちを楽しませるためとは言え、自分の子に寂しい思いをさせて申し訳ないと思っています。ゲイビマンは私の夢。

一関が生んだ、
一関が誇るご当地ヒーロー
六魂戦隊
ゲイビマン

菊地潤さん

37 会社員 東山町長坂

脚本、シナリオ作りを担当しています。家庭内では子供から自慢がられますが、小学5年の娘から若干笑われ始めました。地域では羨望のまなざしで見られます。休日がイベントで重なりと家族にちょっと申し訳ないです。

渡邊昭義さん

35 会社員 東山町長坂

音響、カード作り、準備係、小道具、大道具の出し入れなどを色々かかちで担当しています。家庭でもゲイビマンに興味が出始め、よく話題になります。イベントがあるたびに「今回は行くの？出るの？」と聞かれます。

村上佳代さん

25 保育士 千厩町千厩

イベントの司会です。職場の子供たちは、ゲイビマンのファンでしたが、私が携わっていることを知ってからさらに大好きになってくれました。ゲイビマンはいつも一生懸命。だからみんなに好かれるのではないのでしょうか。

及川浩勝さん

37 会社員 東山町長坂

プロジェクトでの仕事は、準備作業や他の人のサポートなどです。知り合いや周りの人たちから「すごいなー」と声をかけられます。このプロジェクトで、色々なことを学んで自分自身のスキルアップに繋げていきたい。

目指すは家族みんなで楽しめる 等身大のヒーロー

02年の台風6号災害で家や職場が水に浸った。無力感に押しつぶされそうな自分を救ってくれたのは、駆け付けてくれたボランティアの人たち。誰かのために懸命に作業するボランティアの皆さんがヒーローに見えた。当時の自分は、忙しさを理由に保育園の役員を断った。家族を旅行に連れて行くこともできなかった。「子供たちに堂々とした父親の姿を見せたい」。見るだけ、撮るだけの父親から思い出を残してあげられる父親へ変わりたいと思った。子供たちのために頑張りたい、地域のために役立ちたいと思った。

東山には祝鼻溪がある。かつては宮沢賢治がいたこともある。豊かになるための資源はあった。市民劇場、よさこいソー

ラン、コミュニティラジオなどいろいろなことを模索した。一過性ではなく継続できる活動を考えて。たどり着いた結論が、主役は自分ではなく、誰でもなく、いつまでも続けていける「かぶり物」だった。

子供たちを思う気持ちと地域への愛着を重ねて実現させたのがゲイビマンだ。失敗してもいい。格好いいヒーローじゃなくてもいい。家族みんなが楽しめるものを目指した。本心で動いているうちに自信がわいてきた。ポジティブになった。みんなが声をかけてくれるようになった。あいさつできる知り合いが増えた。

自分にとってのゲイビマンは、「憧れ」、「自分を変える力」、「夢をかなえるツール」だ。人や地域をつなぐ存在だ。

東山タイヤ工業所代表取締役。ゲイビマンプロジェクト委員会代表。妻、長女、二女、両親と6人暮らし。45歳、東山町長坂在住



菊地哲也さん

KIKUCHI TETSUYA